

1月28日(木曜日)「波乱の生涯の中でも(2)」

【新改訳 2017】

創世記 39・1-6

「主がヨセフとともにおられたので、彼は幸運な人となり…
…彼の主人は、主が彼のすることすべてを成功させてくださ
るのを見た。……主人は彼を側近の者とし……ゆだねた。…
…主はヨセフのゆえに、このエジプト人の家を、祝福された。
……」(2-5 節)

ヨセフの生涯の第二幕・第一場の要約と言えましょう。

何よりも目を引くのは「主がヨセフとともにおられた」とい
うことです。実は、ここまではヨセフがどんなに熱心に主なる
神に祈ったか、また助けを求めるために何をしたか、ほとんど
書かれていません。不思議な思いがします。しかし、神が彼と
ともにいてくださり、守り、導き、祝福して下さったことが強
調されています。

神は選び、用いようとされている者たちといつも共にいて
くださり、祝福しようとしておられます。「主の祝福そのものが
人を富ませ、人の苦勞は何もそれに加えない」(箴言 10・22)―

ヨセフの生涯はまさにその見本でもありました。

～祈り～

主よ。ヨセフとともにおられたように、私たちとともにいてくださることを感謝します。また、あなたが、主を信じない権力の世界にも働いていることを覚えて賛美します。

【学びのために】

一人の忠実なしもべのゆえに、その人だけでなく、その周囲の人々までも、神は祝福してくださることがわかります。私たちは、神を小さくしてはいないか、注意が必要と思います。